

1

1 イ
2 イ
3 記号
4 ウ

5 (記述題)
6 イ

7 ウ
8 ワンポイントもの

9 色
10 A ぐ
B ほ
c が

11 a 知名度
b 湖
c 注文

2

1 a 一
b 当分
c 都合

2 A 手
B 目
c 口
3 I ア
II (記述題)

4 イ
5 エ

6 イ

7 失業

8 ア
9 ア
10 エ

1

5 行ったことのない場所でも、あれこれと風景を思い出すかべられ

(同意可)

2

3 II 休みでなくとも毎日パ
と遊べると思っただ

(同意可)

配点	
1 10・11 2 1・2	各2点×12=24点
1 5 2 3 II	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1 Iのあとには「ハタザオ」と呼ばれる鉄道を表す線や道路を示す2条線など「長もの」と呼ばれる線で表す地図記号の例が続いているのでエの「たとえば」が入る。IIは等高線や等深線に海岸線や河川、磯や溪谷、砂浜の地形を描いた線を足しているのでアの「さらに」が入る。IIIはそのままに説明された「ワンポイントもの」や「長もの」、色などもまとめて地図記号であるという話の流れなので話をまとめる働きを持つウの「要するに」が入る。

2 地図にはいろいろある、という話をまとめるところに使われる四字熟語なので、いろいろあるという意味を持つイの「千差万別」が入る。エの「千変万化」は物事がさまざまに変化することを表すので違う種類の地図をならべたこの段落のまとめにはふさわしくない。3 地図は文字や数字をのぞいて、施設や道、地形などを多くの人が知っている記号で表している、ということが書かれていた文章である。「記号で表している」ということは表したいものを記号に変えるということなので、「記号化する」と言える。

4 ★では含まれた段落の中にある地図をいねいに数えよう。「道案内を主目的としたもの」「路線図」「鳥瞰図」「ハザードマップ」「天気図」「海図」「事業者専用の地図」「勢力範囲を示す色分け地図」「自宅案内図」の九つである。

5 線⑤の直後に「好きな理由は『風景が見える』から。」と書かれている。この一文に問いの指示である「行ったことのない場所」を組み入れよう。「見える」とはどういうことかもわかりやすくするとなおよいだろう。具体的な言いかえが思いつかばなくてもこのあとの九十九里浜の例のあとに書かれた、「空想も含めてであれ、読者をして図から風景を想起せしめる」の部分が「風景が見える」と同意であると気づけばまとめられる。「読者をして：想起せしめる」とは古めかしい言葉だが、「読者に：想起させる」ということである。

6 線④に「とりわけ地形図が好きで」とあるので②での「付き合ひ」は「地形図を見ることを」趣味としている「くらいの意味である」と見当がつけられる。「地図の中でもとりわけ地形図が…」と地図や地形図全体の話をしているので、アの「ずっと同じ地形図を使っている」はあやまりである。

7 「物心がつく」とは「小さい子が世の中のことをなんとなく理解していく」ということである。

8 建物や施設関係の地図記号については文章冒頭の段落でも書かれていたことに思いあたれば答えを探すのはやさしかっただろう。文章全体の話題を意識しながら読むことが大切である。

9 「オレンジ」や「赤」を表す言葉が答えとなる。決まった形のないものでも記号の役割を果たすことができるのである。

10 A「めぐる」：「ここでは「あることがらに関連している」という意味。B「ほんの」：「ごくわずかな」という意味。C「昔ながらの」：「昔のままの」という意味。

11 a「度」の五画めから七画めを続けて書かないようにしよう。「知名度」とは「人に知られている度合い」ということである。b「湖」は「潮」などときちんと区別しよう。c「注文」は「文」を「門」や「問」としないように気をつけよう。

2 a「礼」を「札」としないように気をつけよう。b「当分」の「当」ははじめの三画をカタカナの「ツ」のように書かないようにしよう。c「都合」の「都」「目」を「目」としないように気をつけよう。ここでは「都合がつく」で「なんとか用意ができる」という意味である。

3 I熟語をわざとカタカナで書く場合には今回のような「意味をよく分かっていない」ケースや、「口調がただどしどしい」、「別の意味や皮肉がかかっている」などの場合がある。ここでは問4にもあるとおりのアイちゃんには会社が倒産することの大変さがわかっていないのでアが答えとなる。IIのアイちゃんがたずねた理由は——線②のあとで「だってアイもパパと遊びたい」とアイちゃん自身が語っている。休みの日には遊んでもらっている様子であることから、いかにも幼い子らしいわがままを言っているといえる。

4 裕輔自身は気にしていないのに、周りの人たちが裕輔の失業をいたわろうとする気持ちのずれがコメディタッチで描かれている場面である。母親はアイちゃんのひとりで裕輔がづらい思いをすることを思っていたのであろう。

5 周りから必要以上に気をつかわれ、アイちゃんを泣かせることにまでなってしまう困っている裕輔とは対照的な「呑気なカラス」がいることで、裕輔の感じる気まずさが強調されている。

6 もしこの「本気で」という言葉がなかったらどう意味が変わるか考えよう。また、わざわざ「本気で」と書かれているのはふつうは「本気で」考えることでもない、ということだとも考えられる。本文の始めに裕輔が昇太に食べさせようとプロッコリー巻きを作っていたことが書かれており、裕輔が料理に身を入れていないとは言いきれないのでイはあやまりである。

7 この文章の中で裕輔をおそっている嵐である。話の中ののできごととも裕輔の失業をきっかけに引き起こされている。

8 この「ありがたい」という気持ちは——線⑥の前に書かれた自分を一生懸命励まそうとする父に対する気持ちであることから考える。

9 「人間いたるところ…」の直前に言った「楽観してればいい」というメッセージを伝えるために引用したのである。

10 問9と同じく、父は焦らずに長続きする仕事を探してほしいということ传达了ったのである。裕輔が職探しをしている間、父は妻の厚子にどうしてほしいか、と考えよう。「厚子さん」とあるので厚子を非難するとは考えにくい。以上